

事業実施主体の概要		事業参加の経緯・背景
所在地	京都府	<p>丹後地域は、京都府特有の小規模な経営が多いことから、収益性の高い京野菜を中心とした園芸作物の生産拡大に取り組んできた。一方、天候不順で乱高下する市場価格の影響を最小限に抑えるため、平成12年から国営開発農地を中心に加工・業務用キャベツの栽培を開始。</p> <p>丹後地域に適した栽培技術の適用を徹底し、単収を向上させ経営の安定化を図ることを目的に事業を実施。</p>
対象品目	キャベツ	
事業対象面積	20ha	
成果目標	①単収の向上31.7%増加 ②栽培面積52.9%増加	

産地での取組

生産・流通の構造改革

- ・加工・業務用専用ほ場の設定
- ・実需者と事前契約
- ・実需者ニーズに即した品種の導入
- ・育苗時に農薬を灌注し生産コストを低減
- ・大型コンテナ出荷により流通コストを低減
- ・トレーサビリティシステムの導入



鉄コンテナの導入

作柄安定

- ・高畝栽培による排水対策
- ・定植苗を消毒し病害虫を防除
- ・灌水設備を用いた保水対策
- ・土壌改良剤を用いた酸度矯正、土壌の化学的性質の改善



高畝栽培（排水対策）

事業参加による産地の変化

成果目標の達成状況

①対象出荷期間における単収の向上

（平成28年）3.797t/10a ▶▶▶ （R3年）5.375.7 t /10a

②対象出荷期間における栽培面積の増加

（平成28年）18.9ha ▶▶▶ （R3年）29.3ha

産地の変化

- ・契約栽培により、生産者は所得の見通しが立つことから、計画生産計画出荷の意識が高まった
- ・加工・業務用は出荷規格の幅が広いため生産ロスが減少
- ・鉄コンテナの導入で10トン車にまとめることで出荷経費が削減でき、農業所得が向上
- ・秋キャベツの作付拡大により、年間を通じた雇用が可能になった
- ・若手新規就農者の定着が進み、産地としての生産余力が向上